

全体目標

がんによる死亡者の減少
(75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少)

すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

がんになってからも安心して暮らせる社会の構築

部会が担当する分野の課題と目標

【目標】がん患者さんやその家族ががん相談を希望すれば、いつでもどこでも質の高いがん情報の提供や相談が受けられ、よりよい治療法及び療養場所を選択することができる。

中期目標:2015年3月までに県民の50%が相談窓口を知っていて、その8割ががんの悩みを解決でき、相談窓口での対応に満足している。

指標: ①相談窓口認知度、②患者満足度

測定方法:患者満足度調査、拠点・支援病院がん相談件数の合算、分析

最終目標:2018年3月までに県民の80%が相談窓口を知っていてその8割ががんの悩みを解決でき、質の揃ったがん相談員が拠点病院、支援病院に配置されている。

指標: ①相談窓口認知度、②患者満足度

測定方法:患者満足度調査、拠点・支援病院がん相談件数の合算、分析

施策毎のアウトカム目標

【アウトカム1】

2015年3月までに県民全体の50%が相談できる場を知っていて、希望した時にいつでも利用できる。

【アウトカム2】

相談員間で質の揃った対応が可能となり、その地域に不足している資源や課題が明らかになる。

【アウトカム3】

インフォームド・コンセンサスが行われる体制と、患者自らが治療内容や治療法を確認し選択できる環境が整備される。

【アウトカム】

施策毎のアウトプット目標

【アウトプット1】
2014年9月までにがんに関連する施設等を通じて2万部配布する。
2015年3月までに評価を実施し、冊子の更新を検討する。

【アウトプット2】
2015年3月までに拠点病院共催で相談支援センターの広報活動を1回以上実施する。

【アウトプット3】
ピアサポーター等と連携し、小児がんサバイバーのネットワークづくりを支援する。

【アウトプット4】
2014年9月までに予備調査(相談センター認知度)を終了する。
2015年3月までに結果を分析し、満足度調査表を作成する。

【アウトプット5】
2015年3月までに支援病院で共通のがん相談集計シートを導入し、定期的に部会報告を行う。

【アウトプット6】
2015年3月までに各拠点病院主催で年3回以上実施し、延100人の実務者が参加する。

【アウトプット7】
2014年9月までに、作成した「小児がんマニュアル」の運用を開始し、2015年3月までに研修会を行う。

【アウトプット8】
毎年演題を出し、部会委員が発表する。また、学会にて最新の情報を収集する。

【アウトプット9】
セカンドオピニオンに関するアンケートを実施し、2015年3月までに結果を公開する。

【アウトプット10】
毎年セカンドオピニオンリストを更新し、協議会ホームページに掲載する。

【アウトプット11】
就労支援に関する事例に關して、社会保険労務士等との研修会意見公開会を1回以上開催する。

施策アクションプラン

【施策1】
患者必携「地域の療養情報」第4版を作成後の調査と今後の対策を行う。

【施策2】
相談支援センターに関する配布やラジカセ組の参加等、広報活動を行う。

【施策3】
働く世代や小児がん患者への支援を充実を図る。

【施策4】
患者家族満足度調査を実施し、分析結果の公開と、相談支援に活用する。

【施策5】
県内のがん相談の傾向を計測し、部会計画の改定等へ活用する。

【施策6】
がん相談員を対象とした研修会を開催する。

【施策7】
がん相談支援センターの相談マニュアルを作成する。

【施策8】
相談支援部会の活動実績を学会等で報告する。

【施策9】
セカンドオピニオンの普及と活用を推進する。

【施策10】
2014年9月までに県内のがん診療を行っている病院のセカンドオピニオンリストを作成する。

【施策11】
がん患者の就労支援の向上をめざし、産業保健関連職種との連携の推進。

導き出された対策項目

【対策項目1】
相談窓口の機能、役割について情報を患者、市民に知らせる

【対策項目2】
相談支援の充実と質の向上

【対策項目3】
運営資源の充実化

平成 26 年度 第 1 回 がん相談支援員実務者研修会

研修会概要

開催日時：平成 26 年 5 月 16 日（金）18:30～20:10

テーマ：がんと仕事 ～就労支援を考える～

講師：桜井 なおみ 氏
（一般社団法人 CSR プロジェクト代表理事）

内容：○講演「がんと仕事～就労支援を考える～」
○グループワーク

主催：琉球大学医学部附属病院
共催：沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
那覇市立病院、沖縄県立中部病院
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

場所：おきなわクリニカルシミュレーションセンター 109・110 室

参加者数：17 人

研修会参加者

がん診療機能別	人数
がん診療拠点病院	8 人
その他の医療機関	4 人
医療機関以外	5 人
合計	17 人

職種	人数
MSW	7 人
看護師	3 人
医師	1 人
社会保険労務士	4 人
その他	2 人
合計	17 人

研修会の様子



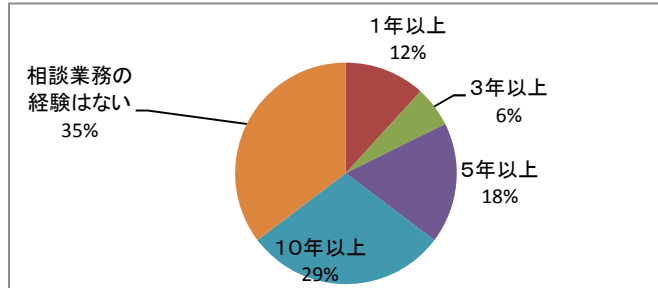
平成26年度 第1回がん相談支援員実務者研修会 アンケート結果

テーマ : がんと仕事～就労支援を考える～
 講師 : 桜井なおみ 氏 (一般社団法人CSRプロジェクト代表理事)
 日時 : 平成26年5月16日(金) 18:30～20:10(延長して21:00終了)
 参加者 : 17人 アンケート回答者 : 17人

Q1 ご自身のこれまでの相談業務の経験年数について教えてください

1	1年以内	0
2	1年以上	2
3	3年以上	1
4	5年以上	3
5	10年以上	5
6	相談業務の経験はない	6
7	無回答	0

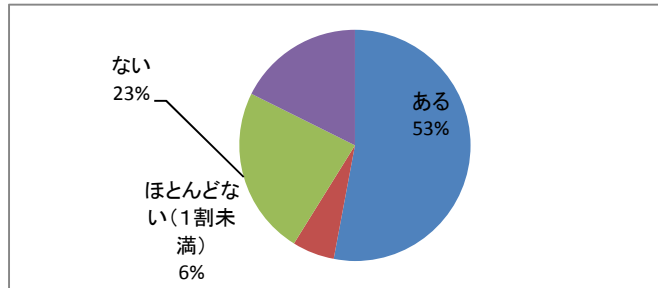
17



Q2 あなたの年間新規相談件数のうち、がん患者・家族からの相談はありますか？

1	ある	9
2	ほとんどない(1割未満)	1
3	ない	4
4	無回答	3

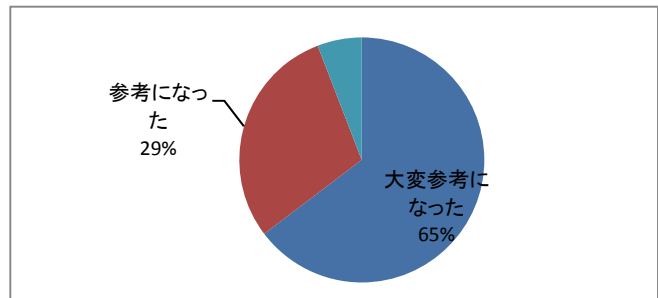
17



Q3 本日の研修会は参考になりましたか？

1	大変参考になった	11
2	参考になった	5
3	普通	0
4	参考にならなかった	0
5	全く参考にならなかった	1
6	無回答	0

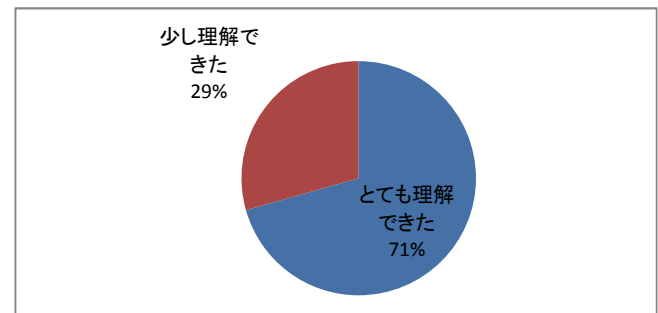
17



Q4 がん患者さんへの就労支援に関する特徴について、理解できましたか？

1	とても理解できた	12
2	少し理解できた	5
3	どちらともいえない	0
4	あまり理解できなかった	0
5	全く理解できなかった	0
6	無回答	0

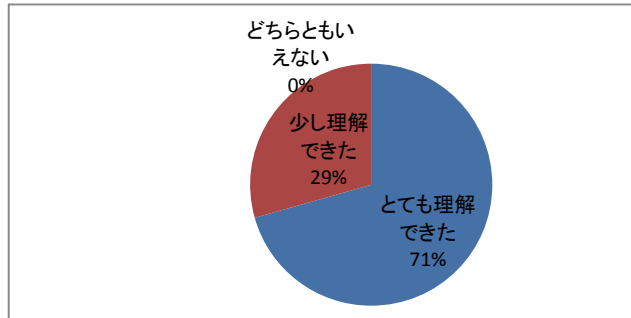
17



Q5 患者支援に必要な視点や支援のプロセスについて、理解できましたか？

1	とても理解できた	12
2	少し理解できた	5
3	どちらともいえない	0
4	あまり理解できなかった	0
5	全く理解できなかった	0
6	無回答	0

17



Q6 研修会の内容で特に参考になったこと、また内容についてご意見があれば教えてください。

- 具体的な「安全配慮義務」の内容や、書類の記載の仕方、職場とのやり取りがわかりやすかったです。
- 就労継続の影響要因が数値化されたことや病期には種老変換かは関係ないことや病態が見えるかしたことは、今後の支援に役立つと思いました。また、ロールプレイで面談のトレーニングをすることで問題が明確になり対応策を考えるきっかけになりました。
- 具体的なシチュエーションでとても参考になりました。大変勉強になりました。介入のタイミングを逃さずに積極的に声をかけていきたいと思えます。
- 高額療養費、傷病手当金は現制度で受けられますが、社会保険料免除の考え方があることを知り、この考え方をもっとPRし進めてほしい。
- 相談場面での具体的なスキルを学ぶことができたから。いろんな事例を知ることができたから。国保の人の傷病手当金・一部負担減免制度がうごいたらもっとすくわれる人がいる。
- 就労支援の4つのポイント、面接のポイント、いろいろな想定を考えておく、病気してましたで終わらないようにできることをアピール
- 面接時にはいかに自分の強み・できることをあどうアピールするかが大切。
- 自己アピールの仕方を身につけさせることが大切
- 大変勉強になりました。ありがとうございます。
- 病気のあるなしに関わらず就労にあたって(面接)は、できることをアピールして、自分のプレゼンをする、そのためにスキルアップ必要、配慮してほしいことも率直に。
- 仕事と治療を両立するためのコツ(期間ごとの考え方、配慮の求め方など)がよく分かった。

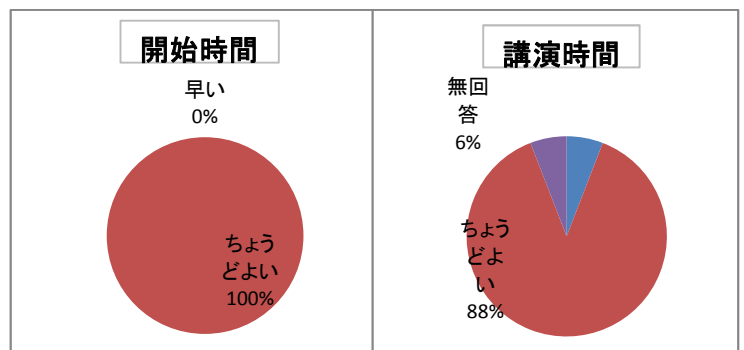
Q7 研修時間はいかがでしたか？

(1) 開始時間

1	早い	0
2	ちょうどよい	17
3	遅い	0
4	無回答	0

(2) 講演時間

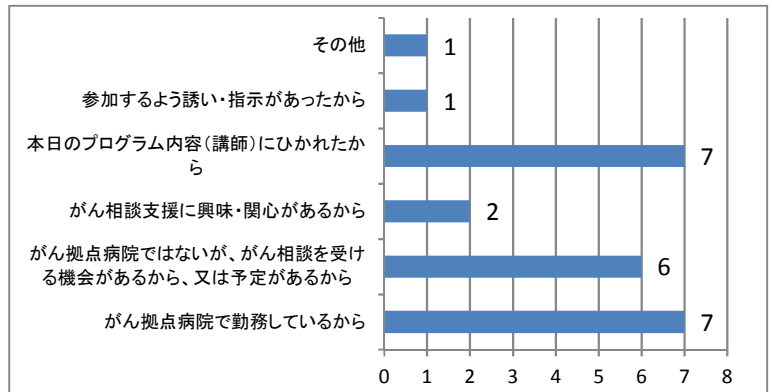
1	長い	1
2	ちょうどよい	15
3	短い	0
4	無回答	1



Q8 本研修会に参加された動機について教えてください(複数回答可)

1	がん拠点病院で勤務しているから	7
2	がん拠点病院ではないが、がん相談を受ける機会があるから、又は予定があるから	6
3	がん相談支援に興味・関心があるから	2
4	本日のプログラム内容(講師)にひかれたから	7
5	参加するよう誘い・指示があったから	1
6	その他	1

24



Q9 今後研修会で取り上げてほしいテーマがあれば教えてください。

- 事例検討など

Q10 本日の研修会に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- 国保の減免制度の運用緩和等について、もうちょっと調べたいと思いました。
- 患者さんの就労に関するデータがとてもわかりやすかった
- 50代の男性で服の仕立を誇りを持って長年やっている方、半年後、治療が終わってなかったら申し訳ないけど辞めてほしいといわれているという相談がありました。ぜひその方に胸をはって「辞めません」と言って頂く支援をしたいと思いました。
- 私見として、沖縄の人は貯金してない。貧困でそれどころじゃない人を除いて、お金の使い方の考えが甘い。というのをいつも感じる。身の丈にあった生活を、と言いたいです。
- よかったですと思います。自分はガンにかかったことでたくさんの人の支援をうけたことをうれしく思ったことがあります。
- 内容が豊富だったので時間があっという間でした。でもできるだけ時間内におさめて。
- よいテーマをありがとうございました。

**【相談支援部会】 【施策7】 沖縄県がん相談支援センター相談マニュアルの作成・普及
(小児がん対応用 沖縄県がん相談支援センター相談マニュアルの作成事業)**

【目的】

小児がん担当相談員の実務の手引きとなる、経済的、社会的な制度、きょうだい児へのサポートや学校との連携などの相談内容についてのノウハウや情報が掲載された「小児がん対応相談マニュアル」冊子を作成し、相談員が、小児がん患者やその家族との相談業務の中で活用できることを目的とする。

【実施主体】

沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会（部会内ワーキンググループ）

【内容】

- (1) がん相談員、医療従事者、がん患者等関係者が検討し、小児がん患者等関係者の不安、悩みの軽減に資する情報を、各々の事例に沿った内容で掲載。
- (2) 小児がんとは？制度のこと、疾患のこと、それに伴う助成金のこと、なおかつ沖縄の事情や県民性を取り入れたもの。
- (3) 症例を出して、それに伴った支援の一連の流れを載せるような形のマニュアル。
- (4) より実用的なもので、実務者が使っているものをまとめており、相談方法や情報が欲しいとき、どこのサイトをみればいいのか？などが網羅された実用書であること。

【期間】

作成期間：平成 25 年 11 月～平成 26 年 10 月

研修会開催：平成 26 年 12 月頃までに開催予定

配布時期：研修会終了後に、配布開始予定

【配布（案）】

配布数：300 部

配布先：①県内 6 保健所

②拠点病院（琉大・那覇市立・中部）、支援病院（北部地区医師会・宮古・八重山）

③那覇市、または沖縄県と契約した小児慢性特定疾患を診療している医療機関

④MSW 協会

⑤各市町村教育委員会（⇒県内小学校の養護教諭、幼稚園）など

⑥沖縄県がん診療連携協議会 HP

⑦沖縄県医師会、沖縄県小児科医会

【 表紙 】



<WG 平成 26 年度の流れ >

平成 26 年度		
日時	主体	内容
4 月 7 日	幹事会	1. 試作版の報告 2. 幹事会委員による意見の収集
4 月 24 日	第 1 回相談支援部会	1. 試作版の報告、ご意見伺い
4 月初旬 ～	事務局(がんセンター)	●がんの子どもを守る会沖縄支部長片倉氏へヒアリング ●第 6 回WGへの参加のお願い
5 月初旬	WG メンバー	●琉球大学医学部附属病院 骨髄移植センター長百名先生へヒアリング
5 月 9 日	協議会	1. 試作版の報告 2. 協議会委員による意見の収集
5 月 20 日	第 6 回	1. 幹事会・協議会・相談支援部会での意見の取りまとめ 2. ヒアリングした内容の報告、及び検討 3. 完成版に向けての内容の最終確認
5 月下旬 ～	事務局	●内容の編集・修正・追記作業 ●第 7 回WGへの参加のお願い
6 月下旬	WG メンバー	●内容の編集・修正・追記作業
6 月 26 日	第 7 回 WG	1. 第 1 版に向けての最終確認(修正した内容の報告、及び検討)
7 月 7 日	幹事会	1. 第 1 版の報告
7 月 17 日	第 2 回相談支援部会	1. 第 1 版の報告 2. 実務者研修会へ向けての調整
8 月 1 日	協議会	1. 第 1 版の報告
8 月 14 日	県教育庁+普及啓発部会	平成 26 年度 5 年経験者養護教諭研修会 ～「おきなわ 小児がん 相談マニュアル」第 1 版の紹介・活用方法～
8 月初旬～ 12 月初旬	相談支援部会	平成 26 年度第 3 回がん相談員実務者研修会(調整中) ～「おきなわ 小児がん 相談マニュアル」第 1 版の紹介・活用方法～
8 月初旬～ 12 月初旬	事務局	「おきなわ 小児がん 相談マニュアル」第 1 版の配布 (小慢の登録医療機関、保健所、MSW 協会、各市町村教育委員会等)
12 月～ 2 月中旬	WG メンバー+事務局	●アンケート調査の実施・回収・まとめ、部会にて報告



地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブック「第4版」記者会見報告書

日時：平成26年5月26日（月）10：30～11：30

場所：沖縄タイムス社・琉球新報天久本社

出席者：國吉 幸男 氏 沖縄県がん診療連携協議会議長（琉球大学医学部附属病院長）
 樋口 美智子氏 相談支援部会長（独立行政法人那覇市立病院医療支援部総合相談センター長）
 望月 祥子 氏 がんサポートハンドブック作成WG長（ハートライフ病院地域医療連携室）



沖縄タイムス 第23457号 2014. 5. 27(火)25面



琉球新報 第37856号 2014. 6. 5(木)18面



平成 26 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 26 年 4 月 24 日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：10 名 樋口美智子（那覇市立病院）、神谷八重子（沖縄県立中部病院）、仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、望月祥子（ハートライフ病院）、古堅敦子（県立宮古病院）、宮良久美江（沖縄県立八重山病院）、上原弘美（沖縄県地域統括相談支援センター）、石郷岡美穂、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、

欠席者：2 名 伊礼みゆき（居宅介護支援事業所なかがみ）、永吉美幸（県立南部医療センター・こども医療センター）

陪席者：1 名 井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 25 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨（資料 1）

協議に先立ち、資料 1 に基づき、平成 25 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（1～3(2)月）

資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき、1～3 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について、報告があった。

3. がん相談件数（1～3(2)月）

資料 3-1, 3-2, 3-3, 3-4 に基づき、樋口部会長より、各拠点病院のがん相談件数（1～2(3)月）について、報告があった。

4. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策 1 関連】地域の療養情報第 4 版について

資料 4 に基づき、大久保委員より、3 月 31 日に第 4 版が発行されたとの報告があった。県には 3 月末に納品済みであり、第 3 版からの改訂のポイントをまとめたチラシを、県からの配布時の鏡文とともに同封していただいているとの周知があった。配布に関しては、専門病院に 300 部程度、その他、第 3 版と同様に、診療所・薬局・市町村・図書館・学校などへ県より順次発送される予定である。

(2) 【施策 1 関連】企業向け冊子「事業者と働く人のための がん治療と仕事 その両立支援のポイント」の発行について

資料 5 に基づき、大久保委員より、社会保険労務士・産業看護師・MSW・医師（元産業医）との共同で、基本的には事業所向けに制作し、がんについての基礎知識・仕事とがん治療を続けるためのポイントをまとめた啓発的なりフレットであるとの報告があった。こちらも、20,000 部作成し、県から各事業所に配布される予定で、配布先などは、県に検討していただいているところである。事業所以外にも、社

労士会や弁護士会、拠点病院・がん専門診療病院にも配布をお願いしているところであり、アンケート用紙も同封して配布いただく予定であるとの周知があった。

(3) 【施策3】 7/27 がんサロン研修会（仮）の後援について

資料6に基づき、上原委員より、7/27にがんサロン研修会を行う予定であり、がんサロンの進行役の役割を理解し、模擬がんサロンを行い、受講者の運営にかかわる実践力を身に付けていただくことが目的である。部会の後援や、部会員の皆さんのファシリテータ（アドバイザー）のご協力を頂きたいとの依頼があった。

(4) 【施策3】 小児がん経験者の会 Ti-da わらば一む交流会について

資料7-1,2に基づき、上原委員より、小児がん経験者の会が作成5月より2か月に1回計6回開催され毎回7~8の参加があったが、今年の5月で1周年を迎えるとの報告があった。1周年を記念して、5/11にビーチパーティを行うので、部会の皆さんにもご参加いただきたいとの周知があった。

資料7-3に基づき、上原委員より、平成25年度琉大病院内でのがん相談業務（ピアサポート）の報告があった。1年を通して月平均20名の利用があり、沖縄県地域統括支援センターと国立がん研究センター相談支援センターとの比較では、当センターがご本人からの相談が75%と特に多く（国がん相談支援センターは、ご本人からの相談が45%で最多）、認知経路は、当センターが家族・友人・知人からで27%と多く（国がん相談支援センターは、医療関係スタッフからが36%で最多）、相談対応は、当センターが傾聴・語りの促進で70%と特に多かった（国がん相談支援センターは、情報提供が40%で最多）。全国の統括支援センターのデータを集計したものはまだないので、国立がん研究センター相談支援センターと比較し学会報告も行ったとの報告があった。

(5) 【施策6】 がん相談員実務者研修について（3/14, 5/16 琉大病院・9/28 那覇市立病院）

資料8-1,2,3に基づき、大久保委員より、3/14に小児がんと患者支援をテーマとして、第4回の実務者研修会を琉大病院で開催し、小児がん経験者の会 Ti-da わらば一む世話役の外間さん、南部医療センター・子どもセンターMSW永吉さんに、講師をしていただいたとの報告があった。外間さんには経験をもとにお話いただき、永吉さんには小児がんの患者支援と小児がん相談マニュアルのお披露目をしていただき、参加者はMSW、医師、看護師の17名であったことも報告された。平成25年度は、拠点病院全体で計4回の実施で、集学的治療とがん相談が全体テーマであった。

大久保委員より、平成26年度は、第1回目を5/16琉大病院にて開催し、CSRプロジェクト代表理事の桜井直美さんに、がんと仕事 就労支援についてのご講演とロールプレイを行う予定との周知があった。

樋口部会長より、第2回目を9/28那覇市立病院にて開催し、前半に兵庫歯科大学大松先生によるがん患者サロン5周年記念講演と、後半に患者会連合会と共催でがん医療におけるピアサポートをテーマに講演を行う予定との周知があった。また、樋口部会長より、中部病院での研修会開催を検討頂きたいとの依頼があった。

(6) 【施策7】 沖縄県がん相談支援マニュアル（小児がん対応用）について

資料9に基づき、石郷岡委員より、百名先生に監修いただき試作版が完成したとの報告があった。今年度は、関係各位への配布と活用のための研修会を行う予定で、5月下旬に予定しているWGでは、4月幹事会・5月協議会でいただいたご意見の検討、今年度のWG等の進め方、アンケートについて等々を検討することも報告

された。石郷岡委員より、百名先生より保健所との連携を進めていきたいとお話があったことも周知された。

【協議事項】

1. 平成 25 年度の部会事業の評価について

資料 10 に基づき、大久保委員より、①-1 地域の療養情報がんサポートハンドブック第 3 版の配布普及活動、①-2 第 4 版の作成、②相談センターの広報活動（ラジオ特別番組など）、③小児がんサバイバーのネットワーク作り、⑥相談員実務者研修会、⑦小児がん相談マニュアルの作成、⑧学会報告、⑩セカンドオピニオンリスト作成 HP 公開などの各施策は、目標達成しているので 10 点の評価としたとの報告があった。

那覇市立病院で人間ドック受診者に調査中で 5 月末までに 300 件めど(3 月末 180 件)収集するため④患者満足度調査の実施は 9 点、⑤相談内容の分析は、統一シートの運用が 3 拠点病院及び北部地区医師会病院でも行われているので 8 点、⑨周知用チェックリスト（下敷きタイプ）はたたき台を作成したので 3 点、⑪相談員の適正配置の要望・実務者研修参加の増加は、がん相談員ネットワークリストを作成したので 5 点の評価としたとの報告があった。

2. 平成 26 年度の部会事業の行動計画について

資料 11-1 に基づき、大久保委員より、①地域の療養情報がんサポートハンドブック第 4 版の配布普及活動、②相談センターの広報活動（ラジオ特別番組など）、③小児がんサバイバーのネットワーク作り、④患者満足度調査の実施、⑤統一シートを導入運用しての相談内容の分析、⑥がん相談員実務者研修会、⑦小児がん相談マニュアルの作成と研修会、⑧部会活動の学会報告、⑩セカンドオピニオンリスト作成 HP 公開などの施策は、前年度からの流れを組んで継続したいとの提案があった。今年度に修正したものとしては、⑨セカンドオピニオンの普及と活用として、平成 22 年度に医師向けに行ったアンケート調査を再度行うことを追加施策としたとの提案があった。

樋口部会長より、政策部会においても、部会事業については、拠点病院・専門治療機関としてがん相談支援センターや相談員が業務としてやるべきことを反映させた施策計画や沖縄県全体としての相談支援体制作り、他の部会にお願いした方がいい事業（施策）、部会事業（施策）の優先順位とボリュームなどを部会で検討するよう提案があったとの報告があった。また、樋口部会長より、拠点の用件にもなった PDCA サイクル、満足度認知度調査が優先事項になろうこと、関連してセカンドオピニオンを実施しているかの調査、就労支援の研修会等の事業も検討していきたいとの提案があった。

施策⑩は、相談員の適正配置の要望プラス、就労支援として相談員の適正配置だけでなく社労士などの多角的な人員配置の要望として修正したり、施策⑥の研修会を社労士との事例検討会・情報交換会にするなどの内容を検討して計画に盛りこむことが協議された。

増田委員より、琉大病院での社労士の派遣は週一午前中のみ可能であり今後調整することが周知され、樋口部会長より那覇市立病院は予算組みのみが決定しているとの報告があった。

増田委員より、社労士にも相談員基礎研修の内容を勉強してもらうなど、がん相談業務に関するレクチャーを受けていただく必要があり、3 拠点病院に社労士を配置するだけでなく、部会としても社労士会との情報共有・協働が必要との意見があった。

資料 11-2 に基づき、大久保委員より、行動計画は部会委員の変更があったり、施策の修正があったりするので、施策の担当は、去年に準じた案を作成し、追って各部会員に連絡することが了承された。大久保委員よ

り、相談センターの広報、相談員サロン、宮古や八重山の離島での出張相談も予算を踏まえて検討中であるとの周知があった。

3. 平成 26 年度の部会事業の予算について

資料 12-1, 2 に基づき、樋口部会長より、資料 11-1 や 11-2 の活動計画や行動計画と連動して予算立てしているとの報告があった。また、大久保委員より、1.-②の在宅医療や介護を担う医療福祉従事者の教材や教育技法の開発に関する研究班が不採択となったので、この部分は修正するとの報告があった。宮良委員より、八重山病院では 2 人が基礎研修(1)(2)を終了しているので、今年度は基礎研修(3)を受講する予定であるとの報告があった。

樋口部会長より、予算や行動計画も関わるが、がん相談支援センターの広報を行うと明記されており、がんサポートハンドブックは新聞広告・ラジオ等の広報を行っているが、普及啓発部会にご相談して、県や市の広報紙等をうまく活用したりできないか、県全体での相談窓口の広報や各部会の広報についても提案していきたいと考えているとの意見があった。

4. 平成 26 年度の部会委員、部会長の選定、及び部会の開催時期について

資料 13 に基づき、全員で協議の結果、部会長は昨年度に引き続き、樋口部会長にお願いすることになった。また、副部会長は、石郷岡委員、神谷委員のお二人に決定した。

5. 地域相談支援フォーラム 相談員・公開フォーラム（新方式パイロット）共催団体募集について

別紙資料に基づき、樋口部会長より、地域相談支援フォーラム、相談員・公開フォーラムの企画の募集についての説明があった。九州では今年度は長崎県、次年度は鹿児島県が応募するとの情報があったが、県の医務課に相談した際には、平成 28 年度以降の応募がよいとの回答であったとの報告があった。締切りが 4/30 でもあることから、部会としては今年度の応募は見送ることが了承された。

6. その他

(1) 長崎県がん診療連携協議会より

参考資料に基づき、樋口部会長より、“がんと向き合う サポートブック ながさき”の製作に際し、おきなわがんサポートハンドブックを参考にさせていただいたとの礼状が届いており、特徴としては本の紹介にページを割いているところ、裏表紙のポケットにがん専門病院一覧表(詳細版)が添付されているとの周知があった。4/23 に、那覇市立病院からほしぞら図書館にがん闘病記を中心に 69 冊の本を寄贈したとの報告もあった。

(2) 毎日新聞の記事より

参考資料に基づき、上原委員より、毎日新聞の「がん患者：高い自殺の危険性…求められる診断時からのケア」という記事の情報提供があった。樋口部会長より、臨床心理士さんが活躍している緩和ケアチームを持つ病院もあるし、相談支援センターのさらなる周知も必要であるとの意見があった。

(3) 部会への患者委員の推薦について

大久保委員より、各部会に患者委員に参加していただく件について提案があり、患者会連合会よりご推薦を

いただいたが、患者さん・ご家族・ご遺族のいずれでもない方であったため、部会として今回は保留とし、再度、増田委員が患者会連合会と調整することが了承された。

(4) 普及啓発部会より、情報提供

樋口部会長より、学研より「がんのひみつ」という本が2013年11月に発行されており、全国の小学校の図書館に配置されていることの周知があった。

(5) 次回、平成26年度第1回相談支援部会開催日について

第1候補日：平成26年7月17日（木）

第2候補日：平成26年7月24日（木）